

小野 宏哉ゼミナール【経済-2クラス】

【**題目**】価値と資本の探求—環境、教育、地域の可能性を考える。

【**到達目標**】社会において各自にとって価値ある問題に取り組む際に、必要な知識・技法を自ら学びとる能力を身に付ける。そのために卒業研究として、自らが大事と思えるテーマを発見し、結論を得るまでの試行錯誤を経験し、論文完成という形で系統的な学習を行う。以下の能力を涵養するが、特に自分が興味を持つ課題を自分が発見する過程に重点を置く。①思考の整理法の技術を習得する。②事実の確認や論理の検証に必要な方法に習熟する。③体系的な作文技術に習熟する。④知識伝達の手法に習熟する。

【**講義内容**】経済社会の興味ある現象を検討する手法を身に付ける。経済と係る環境という問題をはじめに取り上げる。個人もしくは共同で、問題の発見、情報の収集・整理、研究の探査、事実の調査、問題の構造把握、課題の抽出、対策の提示、などに取り組む。毎回の作業を集成し論文ができる過程を経験する。興味に応じて環境以外の課題に挑戦する。

【授業計画】

- 第1回 卒論とは何か、研究する技術
- 第2回 問題の発見:情報、思考および問題意識の整理
- 第3回 問題の発見:情報、思考および問題意識の整理
- 第4回 問題の発見:情報、思考および問題意識の整理
- 第5回 学問を基礎とする問題の発見手法
- 第6回 学問を基礎とする問題の発見手法
- 第7回 学問を基礎とする問題の発見手法
- 第8回 情報収集:先行研究・文献の調査:事例研究の企画と実施
- 第9回 情報収集:先行研究・文献の調査:事例研究の企画と実施
- 第10回 情報収集:先行研究・文献の調査:事例研究の企画と実施
- 第11回 検討・議論・発表の技術
- 第12回 検討・議論・発表の技術
- 第13回 検討・議論・発表の技術
- 第14回 発表と議論
- 第15回 再発表

【**教科書**】必要に応じ適宜提示する。

【**参考文献**】必要に応じ適宜提示する。

【**評価方法**】発表・議論などへの参加(50%)、レジュメの作成(50%)

【**履修の条件**】環境経済学Aを履修すること。

【**聴講生・科目等履修生受入**】可

【**他学科生・他専攻生受入**】可

【**他学部生受入**】否

【**当該科目に関連する開設科目**】ゼミナールⅡ、Ⅲ、Ⅳ

【**使用言語**】日本語、必要に応じ英語

【**担当者からの一言**】大きな枠組みで考え、小さな問題を設定し、答えを求める思考法です。

【身に付くように意識している汎用的能力】

知的な好奇心	◎
本質を理解する力	◎
論理的に考える力	◎
多様性を理解する力	◎
チームワークよく成し遂げる力	◎
様々な人と対話する力	◎
意志や情報を発信する力	◎
自ら行動する力	◎
自己を受け止める力	◎